IRATSUME 5: 79 (1981)

オオルリボシヤンマを鉢伏高原で採集

木下賢司*

1980年9月28日、養父郡関宮町鉢伏高原の湿原で、オオルリボシヤンマ(*Aeschna nigroflava* MARTIN) 1♂を採集したのでここに報告する。同湿地は、県下でも珍しいミツガシワの自生地として知られるが、付近の山小屋の水源として利用されるようになってから水量が減少し、ミツガシワの生存も危ぶまれる状態となっている。ミツガシワと運命を共にするオオルリボシヤンマのためにも、ここで併せて一日も早い湿原保護の対策を訴える。

当日は終日晴天で、同湿地へは、県自然保護協会但馬支部の行事でミツガシワの観察のために午後3時過ぎに訪れた。同個体は、一面雑草に覆われ、殆ど干上ってしまった湿原のなか、僅かに幅2m、長さ15m程で、水深10cm程度に残された水面を、約50cmの高度で往来し、縄張りと思われる行動をしていたものである。行動中、尾端を水中に没してミツガシワの茎に静止したので、その個体は♀で産卵しているのだと思った。静止していたのは15秒程度で、再び飛翔を繰り返したのでこれを採集した。同個体はかなり古い♂であったが、翅の破損等は無かった。

同種は、日本特産種で、北海道、本州、四国、九州と分布は広いが、西南日本では産地が極めて限られているといわれ、但馬でも、出石町森井での記録を知るのみである。日本に産するヤンマ科のなかで、最大級の雄大で美しい同種が、いつまでも鉢伏の地を飛び続けることを望んでやまない。

* 現住所　〒668　豊岡市